

尋常修身教科書 卷一

3
40

検定合格本

K120.1
75a
1

C 1

113



樋口勅次郎 野田龍三郎 合著

尋常修身教科書卷二

東京 金港堂書籍株式會社



頁	目録	頁	目録
一	にぎのふこと	十五	もりらんまる
二	やまさちひ	十六	もりらんまる
三	やまさちひ	十七	みなものらい
四	やまさちひ	十八	みなものらい
五	をののどふ	十九	みなものらい
六	じんむてんの	二十	じんぐー
七	じんむてんの	二十一	じんぐー
八	じんむてんの	二十二	じんぐー
九	やまとたけるのみこと	二十三	にんとくてんの
十	やまとたけるのみこと	二十四	にんとくてんの
十一	やまとたけるのみこと	二十五	いなぼ
十二	やまとたけるのみこと	二十六	しばおん
十三	やまとたけるのみこと	二十七	しばおん
十四	やまとたけるのみこと	二十八	らば

修身教科書 第二卷 一

一 ににぎのみこと

三しゆの

しんきをを

おさづけ



たかちほ

の

みねへ

おくたり



二 山さちひん(一)

なかの

よい

ごきふーだい



あやまち

の

おわびを

なさる



三 山ちちひん(三)

たすくる

かみ

あり



りゆー

ぐーへ

おこし

になる



四 山さちひこ(三)

ちちはは
の
およろこび



兄
の
ごこーかい



五をののどーふー

おちても

おちても

やめず



しんぼー

が

かんじん

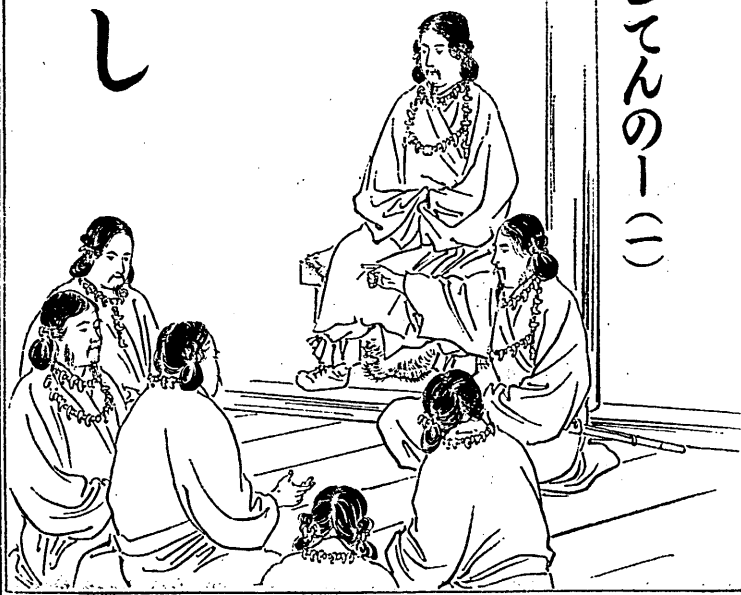


六 じんむてんのー(二)

おほき

な

おころろし



てきす

の

ごかいほー



七 じんむてんのー三



いろいろ
の
ごなんぎ



ごせんぞ
の
おまつり

八 じんむてんのー(三)

じんむてんのーは、にっぽ
んのはじめてのてんし
とまであります。



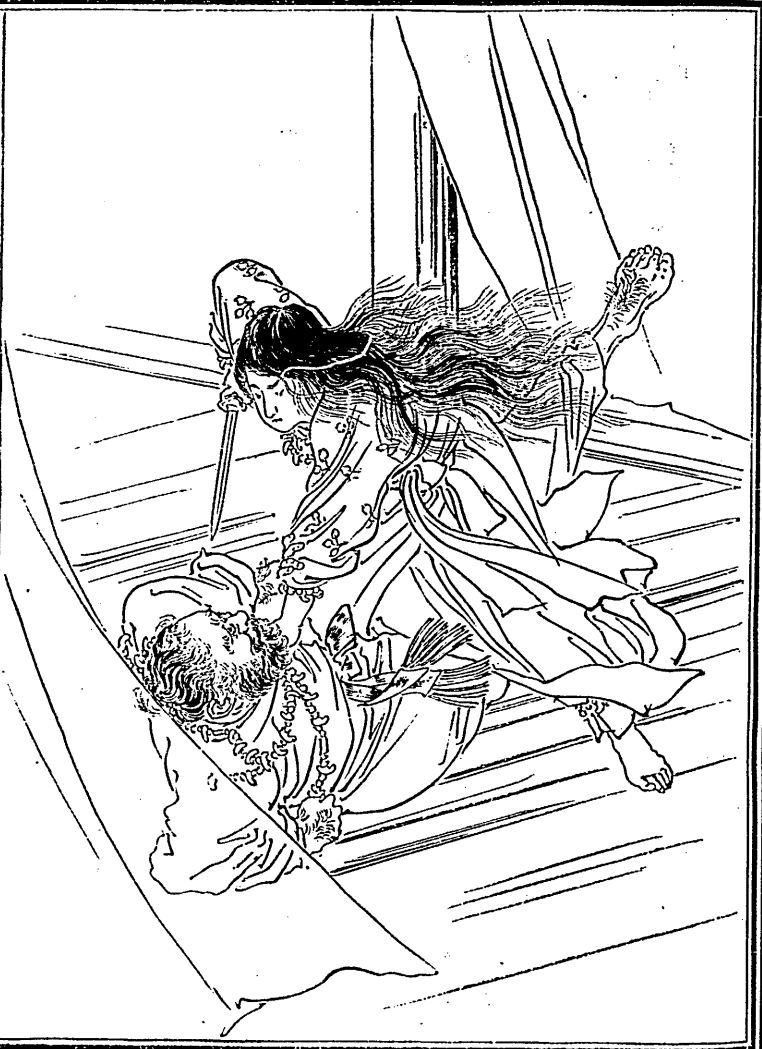
九 やまとたけるのみこと (一)

やまとたけるのみことは十
六さいのおんときくまを
ごせいばつにゆかれました。



十 やまとたけるのみこと(三)

みことは、をんなのふー
をなされて、くまそのか
しらを、おうちとり
になりました。



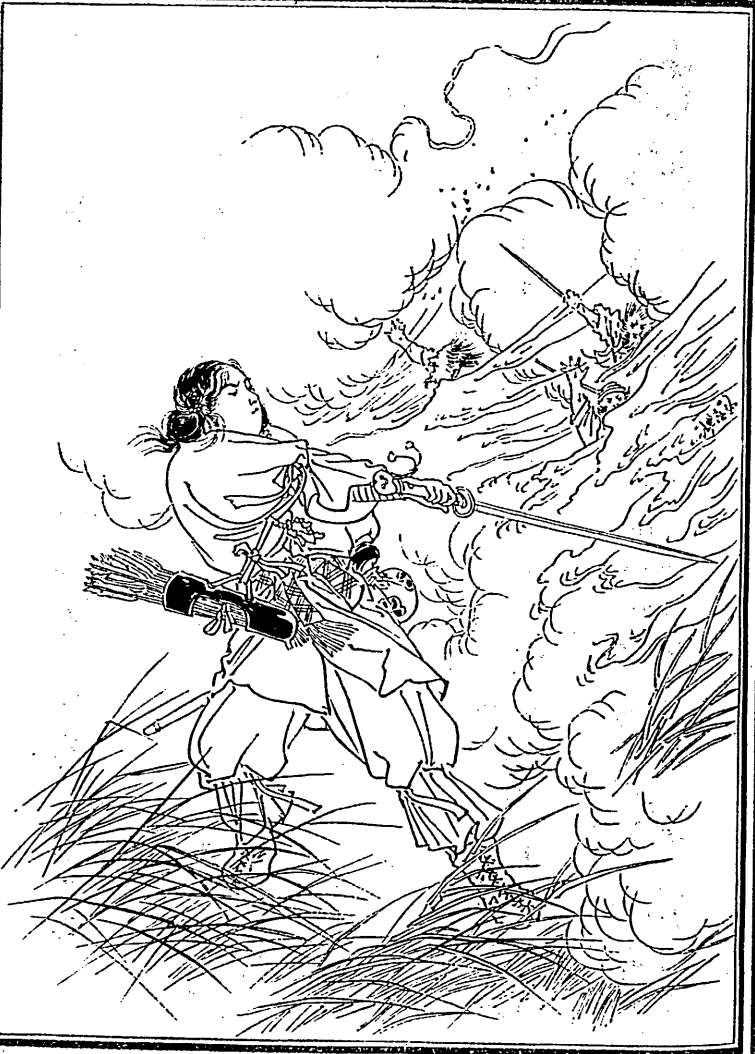
十一 やまとたけるのみこと(三)

みことは、またひがし
のえびすをおうちに
ゆかれました。



十二 やまとたけるのみこと(四)

ぞくは、のはらにひを
つけてみことを、やきころ
さう、としましたがかつて
みことに、やきうちにな
れました。



十三 やまとたけるのみこと(五)

うみが、あれて、みことの
ふねが、かへりそーにな
りましたとき、たちばな
ひめは、みことのおみがは

りに、
うみに
おしづ
みなさ
れました。

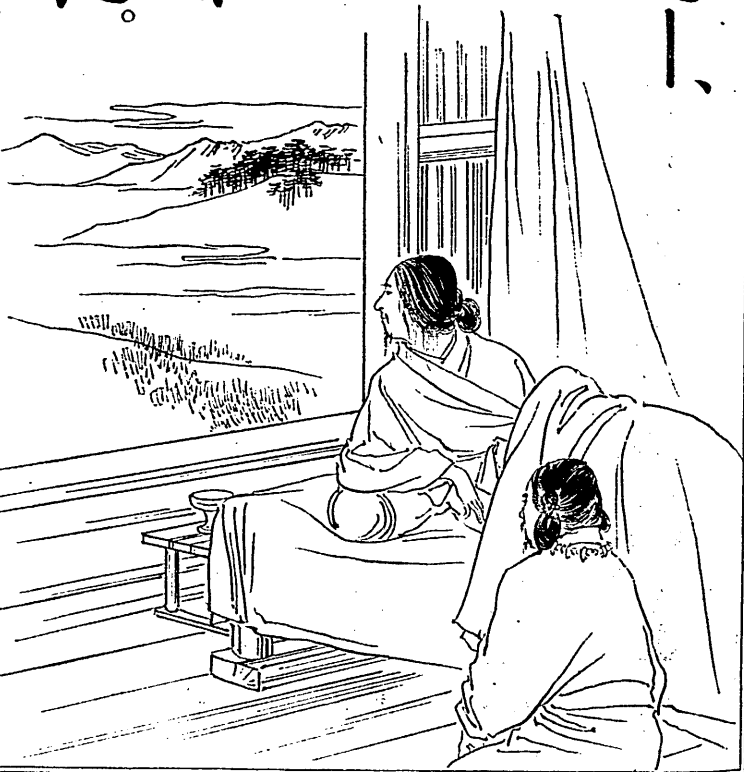


十四 やまとたけるのみこと(六)

みことは、おかへりの
みちにて、おかくれになり
ました。

てんしさまは、それを、

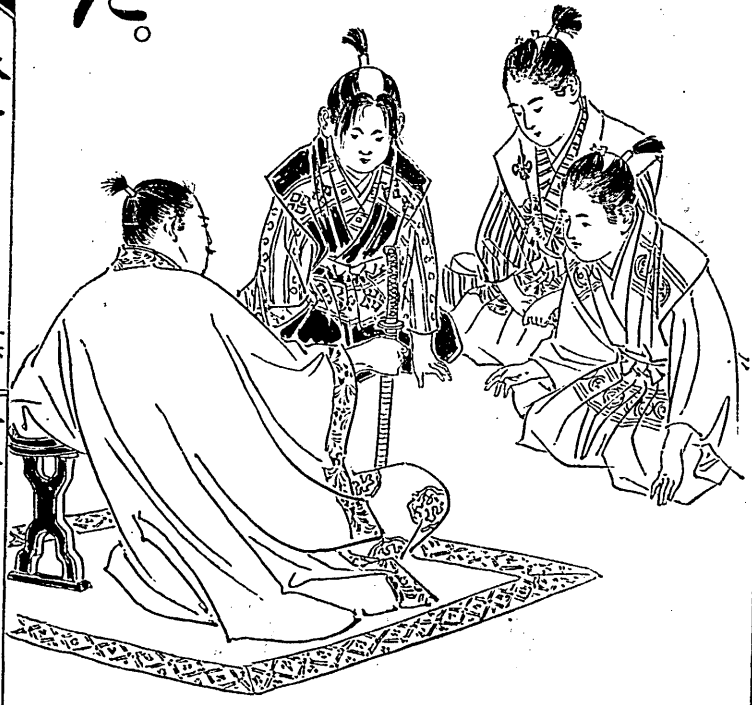
たいそー、
おな
げき、
なされ
ました。



十五 もりらんまる(二)

おだのぶながが、けらい
に、刀のさやの、きんぎょ
目のかずを、あてさせた
とき、もりらんまるは、とう

より、
しつてゐ
るゆゑ、
だまって
ゐました。



十六 もりらんまる(三)

のぶながはらんまるの
しよーちきなのをほめて
かたなをほーびにおやり
になりました。



常仁身教和言

卷一

十六

金沢市立図書館蔵

十七 みなもとのらいこー(一)

おほえやまにおにがゐて、
ときぐみやこにでて、
わるいことをしました。

そこで天子さまがみなもと

のらいこー
におにたい
ぢをおほせ
つけられま
した。



十八 みなもとのらうこー(三)

らうこーはつよいけらい
をつれて、おにのすみか
へゆきました。

おにどもはらうこーと

しらずに、
いばって、
さかもり
をはじめ
ました。



十九 みなもとのらいこー(三)

らいこーはけらいととも
におにのかしらのくびを
きりてしたもみなころし
ました。それゆゑ天子さま

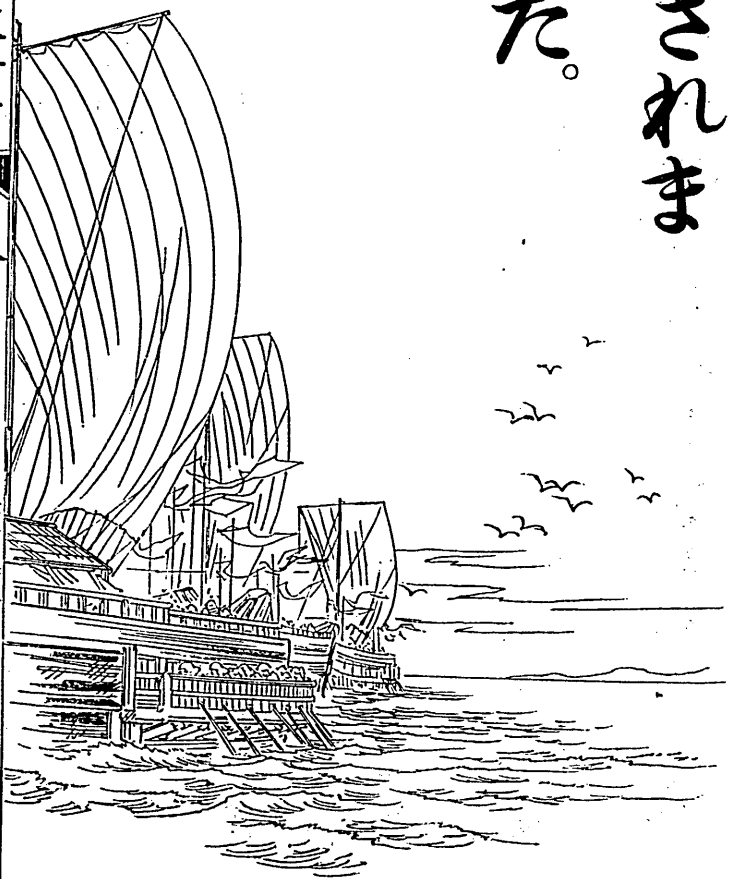
から、
ごほー
びをぐ
だされ
ました。



二十 じんぐーごーごー(二)

じんぐーごーごーはくまそ
がたびくそむくは三か
んがたすけるからである
とて、三かんせいばつを、

なされま
した。



常仁身教和書

卷一

二一

常仁身教和書

二十一 じんぐーごーごー(三)

ごーごーは、なみかぜの
あらしきをおいとひなく、
ふいにしらぎのくに入
せめよせられました。



しらぎ王
は、おそれ、
すぐに、
ごーさん
しました。

二十三 じんぐーこーごー(三)

これをきいてこまも、
くだらも、みな、こーさんし
ました。

これより、ニかんはまい年

みつぎ
ものを、
たてま
つりま
した。



二三 にとくてんのー(一)

わかいらつこは、兄ぎみにんとくてんのーと、三年のあひだみくらるをおゆづりあひに、なりましたが、ぜひ、兄ぎみにと、おぼしめして、

ごじがいなされ
ました。
てんのーは、せ
んかたなく、みく
らるにおつきに
なりました。



常任身書 卷一 全法に書きたる 二五

二十四 にとくてんのー(三)

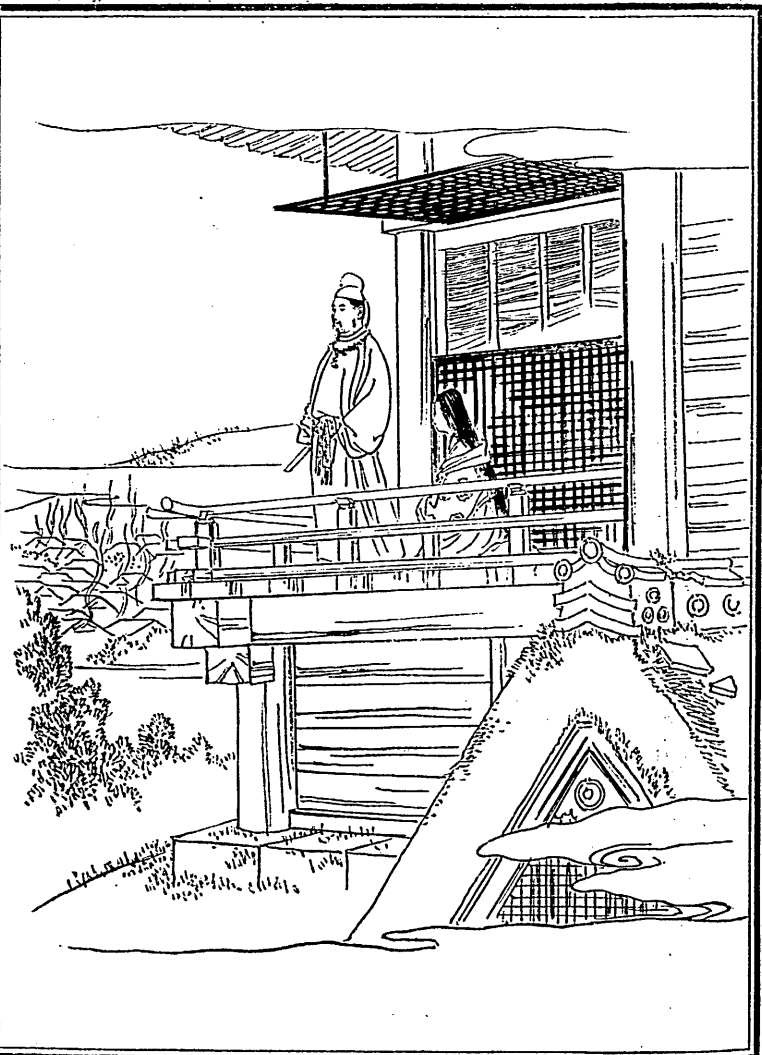
たかきやに

のぼりて見れば

けぶり立つ

たみのかまどは

にぎはひにけり



常修身教科書

卷一

二四

金澤市立三輪小学校

二五 いなぼ

みのるほど

かしらは

ひくき

いなぼかな



いなぼかな

二六 しばおんこー(一)

しばおんこーは、ともだちと、あそんでゐましたとき、人があやまって、水がめにおちました。それをみると、す

ぐに、石で、かめをわて、ともだちをすくひました。



二十七 しばおんこー(三)

おんこーは、子どもものとき、
一どろろそをいって、父に
しかられました。それから、
一しよーし、うそをいって

ことは、
ありま
せんで
した。



尋常徳政小針塔ヲ指テ、右運賃ヲモ負難任ルベク、價 二十八 八家ニシテ、自來水ノ管上

二十八らっぱそつ

あるらっぱはそつは、たま
にあたりましたけれど、手
にらっぱをはなさずしぬ
までふきました。



明治三十四年五月十四日發行
 同三十四年七月二十三日訂正再版發行
 同三十四年七月二十七日發行

常修身教科書
 定價 卷一 金八錢 卷二 金八錢 卷三 金十三錢 卷四 金十三錢
 價入門 卷一 金八錢 卷二 金八錢 卷三 金十三錢 卷四 金十三錢

著作權所有

著者 樋口勸次郎
 著作 野田龍三郎
 發行 金港堂書籍株式會社
 印刷 者
 代表 右社長 原亮一郎
 賣捌所 各府縣特約販賣所

東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

◎弊社ハ常ニ書籍ノ用紙印刷製本等ニ注意シ勉メテ其ノ堅牢ヲ期セリサレド
 多數ノ中萬一學年間ノ使用ニ耐ヘザルガ如キ粗製ノモノアラバ御通知次第
 無代價ヲ以テ御引換申スベク候
 ◎本書ハ僻遠ノ地ニ至ルモ定價ヲ超過シテ賣捌カシムルコトナキハ勿論直接
 ノ御注文ハ多少ニ拘ラズ運賃ヲモ負擔仕ルベク候

尋常修身教科書 卷二

3
40

検定合格本

K120/
75a
2